

# 「空港型地方創生」 鳥取モデル

～もう一步先へ。空港の一層のにぎわいづくり。  
そして空港から外に出て、地域を活性化し、  
輝く鳥取を創造して成長する空港～

"Airport-based Regional Revitalization" Tottori Model

将来イメージ

「空港を超えた空港」

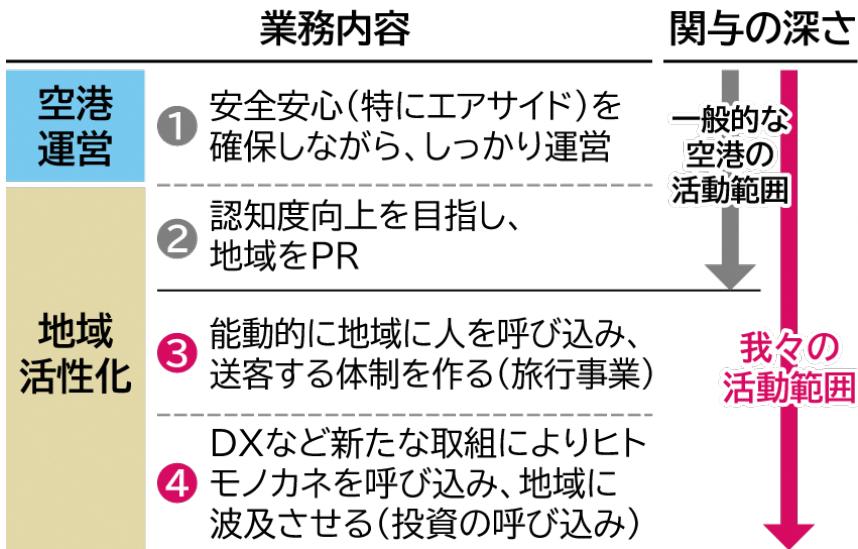
鳥取空港は、地域課題の解決に挑む地方空港の先進モデルとして、観光・交通・産業・人材育成をつなぐ地域共創型ハブを目指します。県内企業と共に歩み、地域をリードする企業文化のもと、DX、脱炭素化、体験型観光、越境学習など先進的な取組により外需を獲得し、人口最少の鳥取県における活性化の中核拠点となります。

「空港を超えた空港」として地域の持続的成長に貢献し、輝く鳥取の創造を実現します。



空港の発展は地域の発展から。地域を活性化させ、行き交う人を増やし、そして、空港の発展へ。

# 「空港型地方創生 鳥取モデル」を実現する「新たな空港経営モデル」



## 目標値

項目	開始当初	5年目	終了年度 (20年目)
旅客数(国内)	41万人	43.3万人	55.1万人
旅客数(国際)	0.2万人	0.6万人	3.5万人
一般来場者数	45万人	47.5万人	60.5万人
貨物取扱量	300 t	325 t	437 t

## 事業方針

- 航空ネットワークの維持・拡充  
羽田線(1日5便体制)の安定運航を最優先とし、後泊キャンペーンや着地型商品の展開による閑散便対策を推進。台湾を中心とした国際チャーター定期便化やビジネスジェット誘致による多層的ネットワークの拡充
- にぎわいの創出(空の駅化・ツインポート構想)  
空港の「空の駅」化による交流拠点づくり。ツインポート構想のもと、二次交通の充実と朝市・体験型コンテンツの商品化による訪問動機強化、交通と観光の両面からの移動需要創出
- DX・脱炭素化の推進  
人口減少による労働力不足への対応と脱属人化を軸としたDX導入。AI活用と設備投資による空港管理・経営・交通連携の効率化と利便性向上、再エネ導入による脱炭素型空港への転換
- 県内事業者の活用による地域密着運営  
地域の特性を熟知し、即応性・現場力に優れる県内事業者・人材との協働による空港運営。知見・技術の継承による地域産業力向上、県内事業者が空港で新技術やDXに触れ、製品・サービスを発信する機会の創出と県内企業の挑戦・発展支援
- 持続可能な運営・人材体制の構築  
「就職先として選ばれる空港」を目指した人材戦略、若者流出防止と地元人材定着支援。ワークライフバランスとウェルルビーイング重視の柔軟な働き方、DX・資格取得支援による技能継承・現場力強化による持続可能な運営体制の確立

# 航空ネットワークの維持・充実

## ■ 航空ネットワークの維持・充実

- ・ **羽田線5便体制の維持を最優先**としつつ、国内外チャーター便や新規地方路線、ビジネスジェット誘致など多層的展開で航空ネットワークの進化を推進。**官民連携で持続可能なネットワーク形成**を目指す
- ・ SPCの**第2種旅行業登録**や傘下バス会社ネットワークを活用し、航空路線維持・誘致につながる商品造成・送客・販路拡大を実施
- ・ 観光に加え、首都圏企業を対象としたビジネス誘致の推進。鳥取空港や地域課題を題材に、鳥取大学や地域企業等と連携した**実践型越境学習プログラム**の展開。社員研修・人材育成の拠点化によるビジネス需要の喚起



- ・ 国内チャーター便については、旅行業機能を活かした誘客拡大と、持続的な運航スキームの確立。鳥取と東北・北関東、南紀白浜を結ぶチャーター便については**双方向の旅行商品造成・販売**を通じて需要を創出し、運航の定着と広域交流の促進を図る。
- ・ 複数空港運営によるエアラインとの連携力を活かし、自治体支援やトップセールスと連携した**実効性ある路線交渉**。また、傘下のビジネスジェット運航ノウハウで受け入れ体制を整え、富裕層・企業ニーズに応じた誘致を推進

## <具体的な施策例: 羽田線閑散便対策>

- ・ ANA292便(鳥取7:05発)では、宿泊補助を含む後泊キャンペーンや夜間観光の推進により翌朝便の利用を促し、ANA291便(鳥取8:15着)では、「**空港に着いたら港で朝ごはん**」といった、搭乗動機の創出につながる着地型商品の開発・展開により、搭乗率の向上とツインポート構想も推進します



©Tottori Pref.

- ・ 鳥取砂丘・馬の背から眺める夕日や星空、漁火、流れ星を楽しむサンセット・ナイトツアーや、鳥取空港と米子空港が連携した広域周遊によるダイヤモンド大山(米子城跡からの絶景を望むサンライズツアーアー)といった体験型観光をオーダーメイドで企画・提供することで、**航空需要の創出**に加え、**宿泊延長や消費単価向上**といった地域課題の解決につなげます



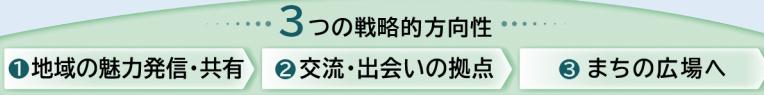
©Tottori Pref.

# 空港や空港周辺のにぎわいの創出

## ■ 「空の駅」化の推進

- 地域の魅力発信や交流を軸に、各種イベントや飲食物販機能を戦略的に展開。空港を観光・交流・地域PR拠点とし、地元事業者の販路拡大や雇用創出につなげ、地域経済を後押し

<具体的施策例>



### ① 地域の魅力を発信・共有する空港

- 「地元の魅力を五感で体感できる場」として、来訪者が地域の個性を楽しめる空間を創出
- 鳥取港事業者等との朝市・特産品販売、山陰ジオパークMICEやアートイベント、体験型企画や「名探偵コナン」関連企画で記憶に残る体験を提供

### ② 交流・出会いの拠点としての空港

- 若者やU・I・Jターン希望者向けに、就職・キャリアフェア、産学官交流、企業マッチングなどを展開
- 自習スペースや「旅育」プログラムなどを通じ、空港を働き・学び・交流の場として活用し、地域との一体感を醸成

### ③ 地域に開かれたまちの広場への進化

- 空港を“日常の交流空間”として開放し、地域住民が気軽に訪れたくなる仕組みを構築
- バックヤードツアーや滑走路ナイトマラソン、空港シネマ、eスポーツ大会など、多世代が楽しめるイベントを継続開催。子育て世代を含む幅広い層が雨雪時でも楽しめる「空の遊園地」づくりも進める

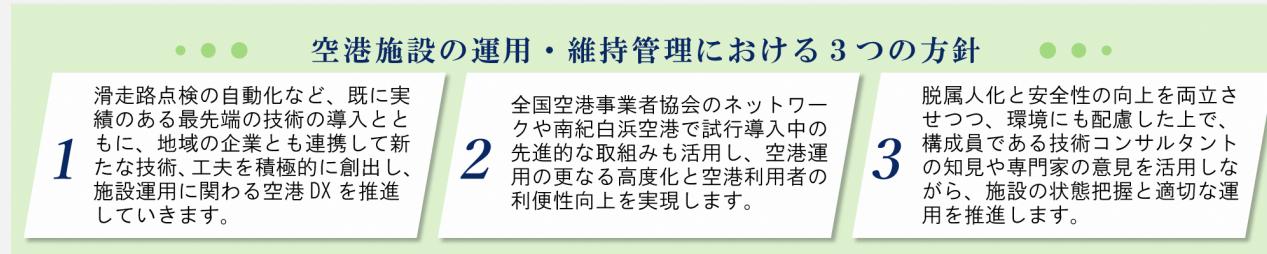
## ■ ツインポート構想の推進

- ツインポート構想は、移動手段と移動需要の両面から地域周遊を強化し、さらなる展開を図る
- 従来の二次交通整備から「もう一步先へ」と踏み込み、観光による訪問動機づけを重ねた独自の需要喚起施策への発展
- バス・タクシーの整備に加え、運転手不足に対応した相乗りや配車効率を高めるライドシェア・オンデマンド交通の導入、およびお客様自ら移動できるレンタサイクル・カーシェア・レンタカーの追加・拡充による移動利便性の向上
- SPCの旅行業機能を活用し、ANA291便(8:15鳥取空港着)にあわせた動線設計による「空港に着いたら港で朝ごはん」などの着地型旅行商品の企画・販売(再掲)
- 需要喚起を通じた移動需要の創出と、地元の食や暮らし・歴史・風土・文化等に触れる体験の促進による観光満足度・滞在時間の向上および早朝便利用の促進による地域回遊の活性化



# 先進的かつ効率的な空港機能の維持

- 日本海沿岸に位置する鳥取空港の地域特性を踏まえ、20年間の事業期間を通じて、**安全安心な運営**を支える**最先端の空港DX**の導入・推進
- 空港施設の**維持管理の効率化と安全性の向上、環境配慮**との両立の実現



- 脱属人化を進め、労働力不足に対応した**持続可能な運営体制**を確立
- 県内事業者や多様なパートナーと連携し、AI等の先進技術を活用した空港機能の高度化を推進**  
(例:SOCOCA(滑走路等点検管理システム)、「ドラレコ×AI」を活用した空港滑走路面の調査及び点検(インフラメンテナンス大賞(国土交通大臣賞)受賞の技術)、自動草刈りロボット、AIさくらさん(生成AI技術を活用したお客様対応、遠隔臨場技術)



- 除雪の効率化・高度化:**日本海沿岸特有の重い雪に対応するため、メンテナンス履歴のデータベースを構築し、スイーパークリアなど部品調達の効率化を実現。青森空港で実績のある「チームスノープラウ法」をはじめ、稚内空港のAI映像鮮明化・熱線カメラ、旭川空港の地域連携モデル、自動運転除雪車など、**他空港やインフラで試行導入中の技術**を効果と費用を見極めた上で積極的に導入。さらに、冬季の除雪と非冬季の草刈りを組み合わせ、人員の**マルチタスク化**による通年業務体制を確立

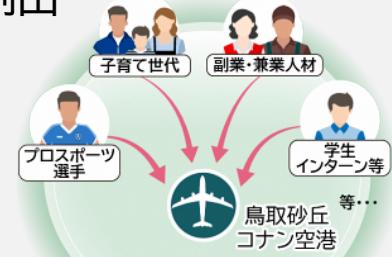
## 地域経済への貢献

### ■ 県内事業者との連携に関する基本方針

- 空港は365日稼働する地域の重要インフラであり、その運営を支えるのは**地域企業・人材**であるとの基本方針
- 県内事業者との連携を基盤**とし、経験と知見を持つ事業者が中核的役割を担う体制の構築
- 南紀白浜空港で培った運営技術や、全国空港事業者協会で得た**ベストプラクティス**を活用した運営の高度化と、県内事業者との知見共有による**地域企業の育成**
- 地域交通・観光等を通じた地域内経済循環の促進と、県外企業への過度な依存を避けた**地域主体の持続可能な運営モデル**の形成
- 空港運営の技術・ノウハウを地域に継承し、脱属人化・作業の見える化・実践的教育を通じた効率的で安定した体制の構築
- 技術革新と地域連携により、**地域発の運営技術を全国に展開可能なモデルへ発展させ**、持続可能な空港運営の推進

### ■ 地域人材の雇用に関する基本方針

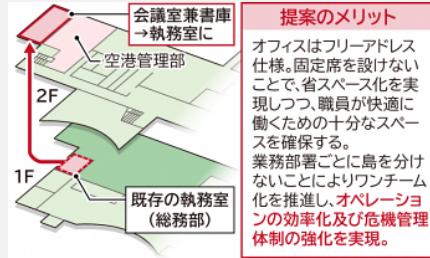
- 「空港型地方創生」の理念に基づき、**地域とともに価値を創出し**、持続的な地域活性化を目指す人材確保・育成の推進
- 若者の県外流出防止とU・I・Jターン受入の強化による**地元雇用**の拡大
- 多様な人材の採用**と**柔軟な働き方**の整備による**働きやすい職場環境**の実現  
例:プロスポーツ選手の雇用や子育て世代の就労支援、副業・兼業人材の活用による地域とのつながりの創出



- 例:学生インターンによる“Z世代視点”の観光企画を通じた地域愛と人材育成の促進
- 研修体制と報酬制度の整備による**人材の育成・定着**と、持続的な空港運営体制の構築

## 安全安心な空港運営

- ・ワンオフィス化により、安全・保安情報を一元的に集約。意思決定の迅速化を通じて、オペレーション効率と危機管理体制を強化



- ・利用者・従事者を含むすべての人の**人命と安全・安心を最優先**に、既存の取組を継続
- ・事業期間にわたり、技術コンサルタントである構成員の経験と知見を活かし、**適切な点検と予防保全**を実施
- ・担い手減少を見据えた業務の効率化・省力化による**安全・保安レベルの向上**
- ・ICAOおよび国土交通省航空局の各種規定・要求水準を遵守し、改定や新基準への柔軟かつ迅速な対応
- ・ビル会社職員および新規雇用する地域人材からの**適切な人材選定と育成**による、将来のマネジメント人材の確保と持続可能な長期運営体制の構築

## 事業実施体制

- ・空港運営の実績を持つ出資者が中心となり、経営と現場が一体となった体制で円滑かつ安定した運営を実現
- ・代表企業主導の明確な意思決定と、**機動的・透明性の高いガバナンス体制**を確立
- ・鳥取空港ビル(株)の職員は、現行と同等の待遇を基本とし希望者全員を**継続雇用**
- ・「就職先として選ばれる空港」を目指し、多様な地域人材の採用・育成・定着を進め、持続的な人材基盤を構築
- ・成果と努力を正当に評価する人事制度を整え、研修やフィードバックを充実させて**職員の成長と意欲**を高めつつ、テレワークや時差勤務など柔軟な働き方を導入し、健康経営と**ウェルビーイング**の実現を進める
- ・「空港型地方創生」の理念のもと、専門性と組織文化を両立させ、DXと経験を融合した柔軟な運営体制を構築。熟練者の知見を形式化し、**OJTや資格取得支援**を通じて技能継承と人材育成を推進
- ・教育機関や地域事業者と連携し、**次世代を担う地域人材を育成**することで、安全・安心が持続する空港運営を実現